



CELVIANO
AP-270

取扱説明書(保証書別添)

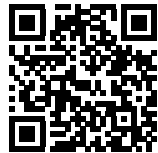
この取扱説明書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。

本書について

本書は、全4ページ、2枚構成です。各ページ右上に、ページ番号があります。

操作の前に、本書「取扱説明書 3/4」の「ボタンー覧」、「FUNCTIONボタンの使い方」、「設定に使用する鍵盤一覧」をご覧ください。

- スタンド、譜面立ての組み立て方法は、本書「取扱説明書 4/4」の「スタンドを組み立てる」をご覧ください。



本書には、基本的な操作方法がまとめられています。より詳しい情報については、「取扱説明書(詳細版)」(下記のホームページまたはQRコードからダウンロードすることができます)を参照してください。
<http://world.casio.com/manual/emi/>

「取扱説明書(詳細版)」には、以下の内容が記載されております。

- 電源を切っても設定状態を保存する(オートレジューム)と操作のロック
- オーディオやアンプとの接続
- パソコンとの接続
- FUNCTIONボタンを使った詳細な設定
- MIDIインプリメンテーション・チャート、等

- 別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、正しくお使いください。

△注意

本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵盤カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

電源について

本機は、電源として家庭用電源を使用します。ご使用後は、必ず電源を切ってください。

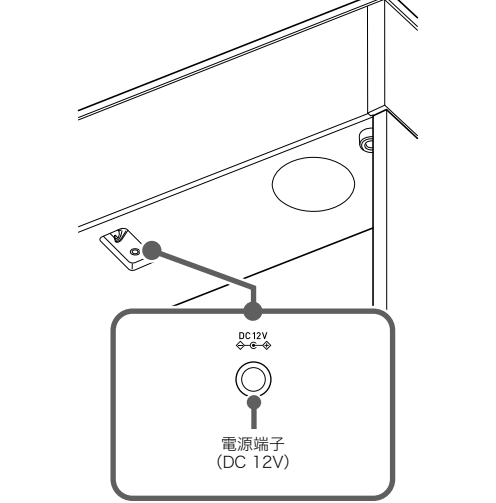
■ ACアダプターの使い方

本機付属のACアダプター(JEITA規格・極性統一形プラグ付き)を使用してください。付属以外のACアダプターを使用すると故障の原因になることがあります。

本機指定ACアダプターの型式 AD-A12150LW

- ACアダプターの接続には、付属の電源コードをご使用ください。

【底面部】



△重要

- 本機付属のACアダプターは、本機にのみご使用ください。他の機器への接続は絶対に行わないでください。故障の原因となります。
- ACアダプター本体を抜き差しするときは、必ず電源を切ってから行ってください。
- ACアダプターは長時間ご使用になりますと、若干熱をもちますが、故障ではありません。
- 付属の電源コードは、本製品以外の電気機器には使用しないでください。
- 本アダプターは、ラベル貼付面が下向きになるように床に置いてご使用ください。異なる置き方をするとき電磁波が発生しやすくなる場合があります。

電源を入れる／切る

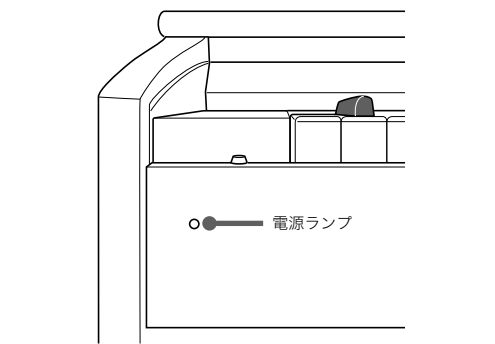
■ 電源を入れる

⓪(電源)ボタンを押します。約5秒後に使用できる状態になります。

■ 電源を切る

電源ランプが消灯するまで、電源ボタンを押し続けます。

【前面部】



△重要

- ⓪(電源)ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

■ オートパワーオフ

本機を4時間以上操作しないと、自動で電源が切れます。この機能をキャンセルするには、FUNCTIONボタンを押しながら⓪(電源)ボタンを押して、本機の電源を入れます。

音量を調整する

VOLUMEつまみでスピーカーやヘッドホンからの音量を調整します。

チューニングを変更する

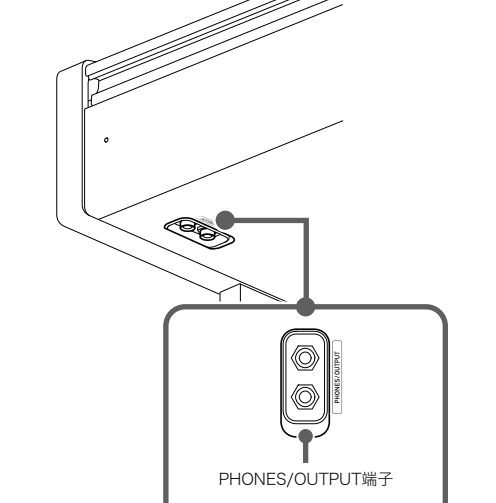
本機全体の音の高さを工場出荷時のA4=440.0Hzから、0.1Hz単位で変更できます。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、A音のチューニングの＋／－鍵盤を押します。
 - 0.1Hz単位で上下します。
 - FUNCTIONボタンを押しながら、A音のチューニングの＋と－鍵盤を同時に押すことに、以下の値を交互に切り替えます。
確認音1回:440.0Hz
確認音2回:442.0Hz

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンをPHONES/OUTPUT端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。

【前面部】



△メモ

- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。

ボタンから音色を選ぶ

1. GRAND PIANO 1ボタン、またはGRAND PIANO 2ボタンを押します。

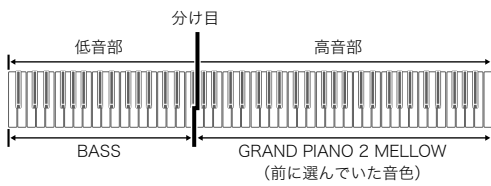
鍵盤から音色を選ぶ

音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、音色に対応する鍵盤を押します(「設定に使用する鍵盤一覧」の「音色」を参照)。
 - 鍵盤によっては1つの鍵盤に複数の音色が設定されている場合があります。その場合は、FUNCTIONボタンを押したまま鍵盤を押すたびに、音色が順に切り替わり、並び順に応じた回数の確認音(ピッ)が鳴り、現在の設定をお知らせします。
例: MODERN/ROCK/JAZZが設定されている場合
確認音1回: MODERN
確認音2回: ROCK
確認音3回: JAZZ

■ 低音部専用の音色(ベース)について

鍵盤セレクトのベース音色(BASS LOWER)を選ぶと、低音部(左側)の鍵盤だけがベース音色に変わります。このとき、高音部(右側)の鍵盤は、それまで選んでいた音色のまま変わりません。



2つの音色を重ねてみる(レイヤー)

1. FUNCTIONボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオンにします。
 - 鍵盤を押すたびに、オン／オフが切り替わります。
2. FUNCTIONボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を押します。

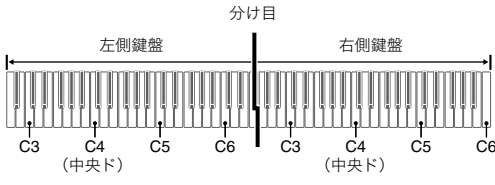


3. 元の1音色の状態に戻すには、再びFUNCTIONボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオフにします。

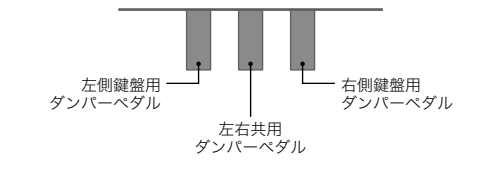
鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

【鍵盤】



【ペダル】



△メモ

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

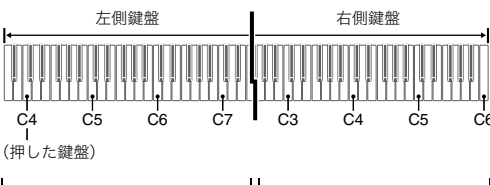
1. 音色を選びます。
2. FUNCTIONボタンを押しながら、デュエットモード鍵盤を押すことに、デュエットモードの設定が以下のようになり切り替わります。
オフ
オン
バン: 左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るように設定されます

音域を変更するには

最初の設定から、左右の鍵盤それぞれの音域をオクターブ単位で変更できます。

1. FUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。そのままFUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを押しながら、手順2へ進みます。

例: 左端のC(ド)の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。



最初の設定より1オクターブ高い 最初の設定のまま

2. FUNCTIONボタンとGRAND PIANO 1ボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。

C4の音が鳴って、右側鍵盤の音域が変更されます。

△メモ

- デュエットオンを解除してもう一度オンにすると、最初の音域設定に戻ります。

内蔵曲を聴く

本機には、ピアノソロ曲「ミュージックライブラリー」が60曲(1～60番)と、ピアノとオーケストラの合奏曲「コンサートプレイ」が10曲(1～10番)内蔵されています。

【デモ曲

1. FUNCTIONボタンを押しながらMETRONOMEボタンを押します。
コンサートプレイ(リッスン)曲: 全曲、ミュージックライブラリー全曲の順で連続ループ再生します。
 - 次の曲を聴くには、デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらMIDI RECボタンを押します。
 - 前の曲を聴くには、デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらREVERBボタンを押します。
 - デモ演奏を止めるには、▶■ボタンを押します。

△メモ

- デモ演奏中にFUNCTIONボタンを押しながらMETRONOMEボタンを押すと、コンサートプレイの曲を再生中は、ミュージックライブラリーの1曲目に移り、ミュージックライブラリーの曲を再生中には、コンサートプレイの1曲目に移ります。
- デモ演奏中は、曲の変更と演奏停止以外の操作はできません。

【ミュージックライブラリー

1. FUNCTIONボタンを押しながら、ミュージックライブラリーの曲選択＋／－鍵盤を押して曲を選びます。
ミュージックライブラリーの曲選択の0～9鍵盤で曲番号を直接入力することもできます。
2. ▶■ボタンを押して、演奏を始めます。
 - 演奏を止めるには、もう一度▶■ボタンを押します。

【コンサートプレイ

1. FUNCTIONボタンを押しながらコンサートプレイの曲選択＋／－鍵盤を押して曲を選びます。
2. FUNCTIONボタンを押しながらコンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押して、演奏を始めます。
 - 演奏を止めるには、もう一度FUNCTIONボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

△メモ

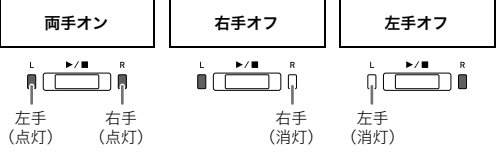
- コンサートプレイはオーケストラの生演奏を収録しているため、使われている音色は本機で選択できる音色(音色を選ぶ)と異なります。また、演奏者の息づかいや演奏ノイズが含まれています。

内蔵曲を練習する

【ミュージックライブラリー

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習をしてみましょう。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、ミュージックライブラリーの曲選択(＋／－、0～9)鍵盤を押して、練習する曲を選びます。
2. FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを押して、各パートのオン／オフを選びます。
オフにしたパートを弾いてみましょう。



- ボタンを押すたびに、左手、右手のオン／オフの組み合わせが変わります。
- 3. ▶■ボタンを押して、曲を再生させます。
 - 途中で曲を止めるには、もう一度▶■ボタンを押します。

【コンサートプレイ

3つのステップで合奏の練習ができます。

■ ステップ1: リッスン

お手本に、ピアノとオーケストラの合奏を聴いてみましょう。

1. FUNCTIONボタンを押しながらコンサートプレイの曲選択＋／－鍵盤を押して、合奏する曲を選びます。
2. FUNCTIONボタンを押しながら、コンサートプレイのリッスン鍵盤を押します。
3. FUNCTIONボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押して、曲を再生させます。
 - 途中で曲を止めるには、もう一度FUNCTIONボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生／停止鍵盤を押します。

■ ダンパーペダル

演奏中にこのペダルを踏むと、鍵盤を離してもその音の余韻が残ります。また、途中で踏んで軽く効果をかける「ハーフペダル」にも対応しています。

■ ソステヌートペダル

このペダルを踏んだ時点で押さえている鍵盤の音だけ、鍵盤を離してもペダルを離すまでその音の余韻が残ります。

■ ソフトペダル

音が弱く、柔らかくなります。ペダルを踏んだ状態で、弾いた音に対してのみ効果があります。

△メモ

- ペダルを踏んでも効果がかけられない場合は、ペダルコードの接続が不完全なときがあります。プラグは根元までしっかり差し込んでください。

メトロノームを使う

■ メトロノームを鳴らす

1. METRONOMEボタンを押します。
1拍目にベル音が鳴り、残りはクリック音が鳴ります。拍子に合わせてランプが点滅します。
メトロノームを止めるには、もう一度METRONOMEボタンを押します。

【メトロノームの設定

■ 拍子を設定する

1. FUNCTIONボタンを押しながら、メトロノームの拍子鍵盤を押します。
 - そのままFUNCTIONボタンを押し続けて、手順2へ進みます。
2. 続けて拍子の0～9鍵盤で拍子を選びます。

設定範囲: 0～9

- 「0」を設定すると、ベル音は鳴らずにクリック音のみが鳴ります。

■ テンポを設定する

1. FUNCTIONボタンを押しながら、メトロノームのテンポ鍵盤を押します。
 - そのままFUNCTIONボタンを押し続けて、手順2へ進みます。
2. 続けてテンポの0～9鍵盤でテンポを設定します。

設定範囲: 20～255

- テンポ＋／－鍵盤を押すと、テンポが1ずつ上下します。

■ 音量を変える

1. FUNCTIONボタンを押しながら、メトロノームの音量＋／－鍵盤を押して音量(0～42)を設定します。

設定範囲: 0～42

- メトロノームの音量＋／－鍵盤と一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

鍵盤を押す強弱で音量を変える(タッチレスポンス)

タッチレスポンス機能とは、鍵盤を押す強さ(速さ)で音量を変化させる機能です。

1. FUNCTIONボタンを押しながら、鍵盤のタッチ鍵盤を押します。

- 感度は3段階、オフから選べます。鍵盤を押すことに、下記の回数だけピーという音が鳴り、現在の設定をお知らせします。
1回(長い音): オフ
1回(短い音): 1
2回: 2
3回: 3
• 設定値が小さいほど、弱めのタッチで大きな音が出ます。
- オフにすると、鍵盤を押す速度にかかわらず、音量は一定のままになります。

MIDIレコーダーを使う

本機での演奏を、内蔵のMIDIレコーダーへ録音したり、録音したものを聴くことができます。

■ 録音できる容量

- 約5,000音符まで録音できます。

■ 録音される内容

- 鍵盤演奏
- 演奏に使用した音色
- 拍子(トラック1のみ)
- テンポ設定(トラック1のみ)
- レイヤー設定(トラック1のみ)
- デュエット(トラック1のみ)
- 音律(トラック1のみ)
- 鍵盤の音量(トラック1のみ)
- コーラス(トラック1のみ)
- プリリアンス(トラック1のみ)
- リバーブ設定(トラック1のみ)
- ダンパーノイズのオン／オフ(トラック1のみ)

■ 録音内容の保持

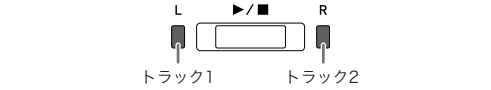
- 新しく録音した時点で、前の録音内容は消去されます。
- 録音中に電源が切れると、録音していた内容はすべて消去されます。

△重要

- 本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ トラックについて

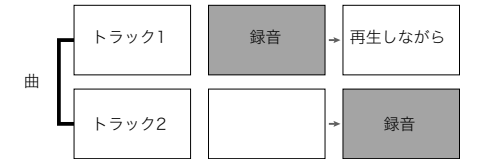
演奏を録音する場合のことをトラックと呼びます。本機の曲にはトラックが2つあり、▶■ボタンのL/Rランプでトラックの状態を表します。



ランプ	状態
消灯	オフ
点灯	再生待機、または再生中
点滅	録音待機、または録音中

△メモ

- トラック1、トラック2と順番に録音することで、録音後に2つのトラックを1つの曲として、再生することができます。



■ 鍵盤演奏を録音する

1. MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。
録音待機状態になります。
2. 録音するトラックのランプが点滅するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
録音が始まります。
 - 演奏ミスなどで録音をやり直したいときは、録音中にMIDI RECボタンをビット音が鳴るまで長押ししてください。録音中のデータを放棄して録音待機状態に戻ります。
 - 録音を止めるには、▶■ボタンまたはMIDI RECボタンを押します。

■ 録音した演奏を再生する

1. MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。
再生待機状態になります。
2. 再生するトラックのランプが点灯するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
 - 両方のトラックを再生するには、L/R両方のランプを点灯させます。
3. ▶■ボタンを押します。
再生が始まります。
 - 再生を止めるには、もう一度▶■ボタンを押します。

■ 録音した演奏を再生しながら、他のトラックに録音する

1. MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。
再生待機状態になります。
2. 再生するトラックのランプが点灯するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
3. MIDI RECボタンを押して、MIDI RECランプを点滅させます。
録音待機状態になります。
4. 録音するトラックのランプが点滅するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
録音が始まります。
 - 録音と再生が始まります。
 - 最初から録音をやり直したいときは、MIDI RECボタンをビット音が鳴るまで長押ししてください。
 - 再生と録音を止めるには、▶■ボタンを押します。

■ 録音した演奏を消去する

△重要

- ここで消去したトラックの内容は、元に戻すことはできません。

1. MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。
2. 消去するトラックのランプが点滅するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
3. MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを押し続けます。
消去待機状態になります。
4. FUNCTIONボタンを押しながら、▶■ボタンを押します。
選んだトラックの内容が消去されます。
 - 途中で操作を中止するには、MIDI RECランプが消えるまでMIDI RECボタンを1回または2回押します。

リバーブをかける

1. REVERBボタンを押すたびに、リバーブのオン／オフが切り替わります。
リバーブをオンにすると、音に残響がかかります。

■ リバーブがオンのときにかかるリバーブの種類を選択する

1. FUNCTIONボタンを押しながら、選びたいリバーブに対応している鍵盤を押します。
1: ルーム
2: 小ホール
3: 大ホール
4: スタジアム

困ったときは	
こんなときは	解決方法
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUMEつまみを"MAX"の方に動かす。 2. ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES/OUTPUT端子から抜く。 3. ローカルコントロールの設定をオンにする。詳しくは取扱説明書(詳細版)をご覧ください。
ピッチがずれて聴こえる。	1. トランスポーズ設定を"0"にする。または、電源を入れ直す。 2. チューニング設定を440.0Hzにする。または、電源を入れ直す。 3. オクターブシフトの設定を"0"にする。詳しくは取扱説明書(詳細版)をご覧ください。 4. 音律の設定を"00"(平均律)にする。
ペダルを踏んでも効果がかからない。	ペダルユニットのプラグの向きを確認して、本機のペダルコネクタにしっかり差し込む。プラグの向きは、本書「取扱説明書 4/4」「スタンドを組み立てる」の「コード類を接続する」をご覧ください。
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。 例：弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	オートレジェームをオフにして、電源を入れ直す。詳しくは、取扱説明書(詳細版)をご覧ください。
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理 [※] によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げる処理。
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内部エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。
本機のデータや設定などの内容をすべて初期化する。	FUNCTIONボタンとMIDI RECボタンとGRAND PIANO 2ボタンを押しながら、電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。
FUNCTIONボタンと＋/－鍵盤を押して設定した数値を元に戻す。	FUNCTIONボタンを押しながら、それぞれの設定の＋と－鍵盤を一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

製品仕様	
型式	AP-270BK/AP-270BN/AP-270WE
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大192音
音色	22種類 ・レイヤー可(ベース音色を除く)
アコースティックシミュレーター	ダンパーレゾナンス (ダンパーノイズのオン/オフ)、ハンマーレスポンス
エフェクト	ブリリアンス (－3～0～3)、リバープ (4種)、コーラス (4種)、DSP
メトロノーム	・ 拍子:0 ～ 9 ・ テンポ範囲:20～255
デュエット	音域変更可 (－2～2オクターブ)
コンサートプレイ	・ 曲数:10曲 ・ 曲の音量:調節可 ・ パートのオン/オフ:L、R(レッスンモード時のみ) ・ 3モード:リッスン、レッスン、プレイ
ミュージックライブラリー	・ 曲数:60曲、ダウンロード曲:10曲(1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB) [※] ※ 表記容量は、1KB=1024バイト換算です。 ・ 曲の音量:調節可 ・ パートのオン/オフ:L、R
録音機能	MIDIレコーダー ・ 方式:リアルタイム録音、再生 ・ 曲数:1曲 ・ 録音トラック数:2トラック ・ 容量:合計約5,000音符 ・ 録音内容の保持:内蔵フラッシュメモリー
ペダル	ダンパー (ハーフペダル可能)、ソステヌート、ソフト
その他の機能	・ タッチレスポンス:3種類、オフ ・ トランスポーズ:2オクターブ(－12～0～+12) ・ チューニング:415.5Hz～440.0Hz～465.9Hz(0.1Hz単位) ・ 音律:平均律+16種類 ・ オクターブシフト:4オクターブ(－2～0～+2) ・ 操作のロック
MIDI	16chマルチティンバー受信
入出力端子	・ PHONES/OUTPUT端子:ステレオ標準ジャック×2 ・ 電源端子:DC12V ・ USB端子:タイプB ・ ペダルコネクタ
スピーカー	φ12cm×2 (出力8W+8W)
電源	ACアダプター AD-A12150LW使用 ・ オートパワーオフ機能:約4時間、キャンセル可能
消費電力	12V ≐ 18W
サイズ	本体+スタンド:幅141.7×奥行43.2×高さ82.1cm
質量	本体+スタンド:約36.6kg

・ 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

アプリケーションとリンクして使おう(APP 機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続し、専用アプリを使うと、スマートデバイスの画面で視覚的にピアノ本体を操作したり、内蔵曲の楽譜表示[※]や曲解説の閲覧ができます。
※コンサートプレイ曲を除く。

専用アプリをダウンロードする

以下のページから専用アプリをダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。
<http://web.casio.com/app/ja/>



付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご注意ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

付属品一覧

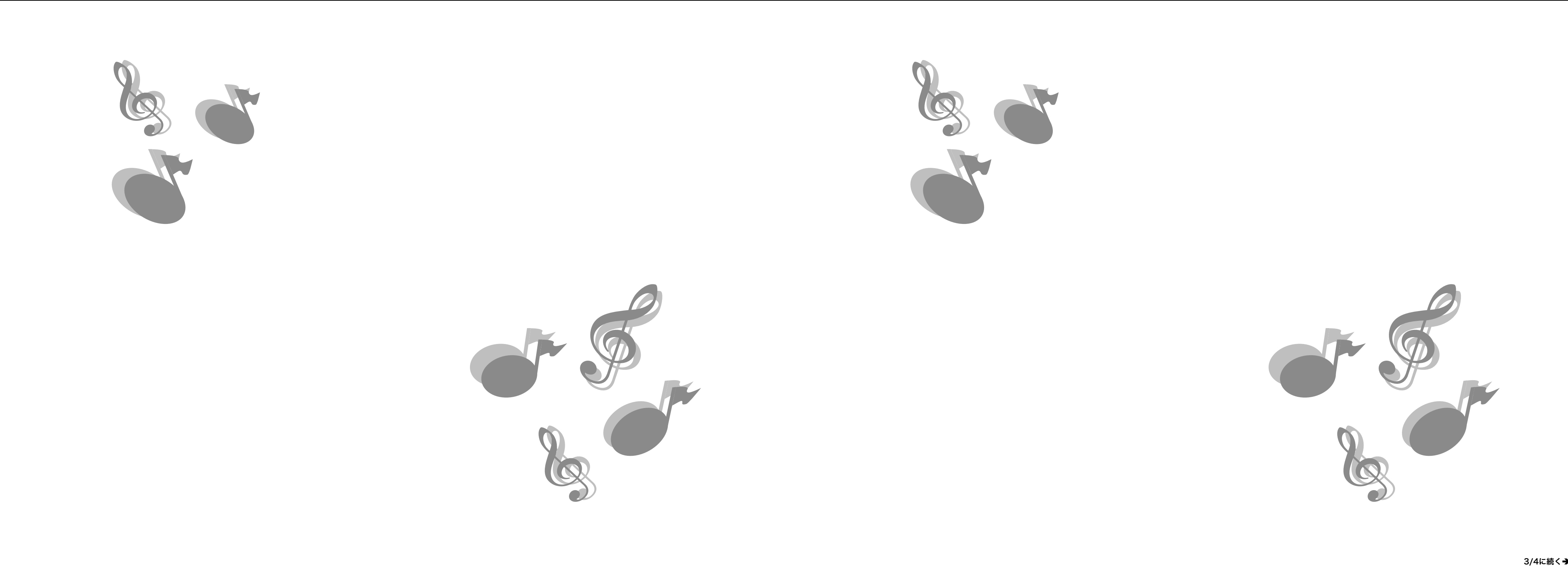
- スタンド、ペダルユニットについては、本書「取扱説明書 4/4」「スタンドを組み立てる」をご覧ください。

ヘッドホン	譜面立て	イス
楽譜集(2冊)	ACアダプター (AD-A12150LW)	電源コード
リーフ類 <ul style="list-style-type: none">取扱説明書(本書)カシオ電子楽器保証書安全上のご注意アフターサービス窓口についてその他		

- 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。(ACアダプターは別売品で購入可能)
- 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

別売品のご案内

商品名	品番	・ カシオ電子楽器取扱店で購入可能。 ・ 別売品については、店頭の製品カタログでより詳しい情報がご覧になれます。 http://casio.jp/emi/catalogue/
ヘッドホン	CP-16	
イス	CB-5 CB-7 CB-30	

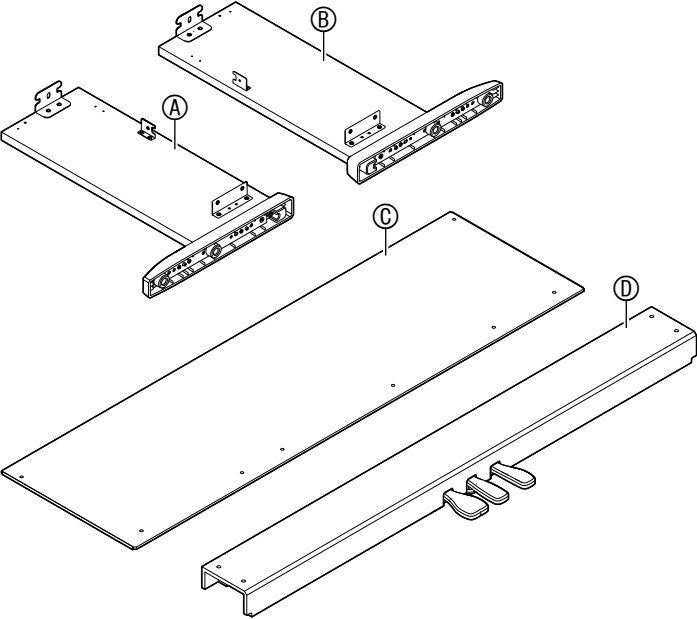


スタンドを組み立てる

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス (+) ドライバーをご用意ください。

重要！

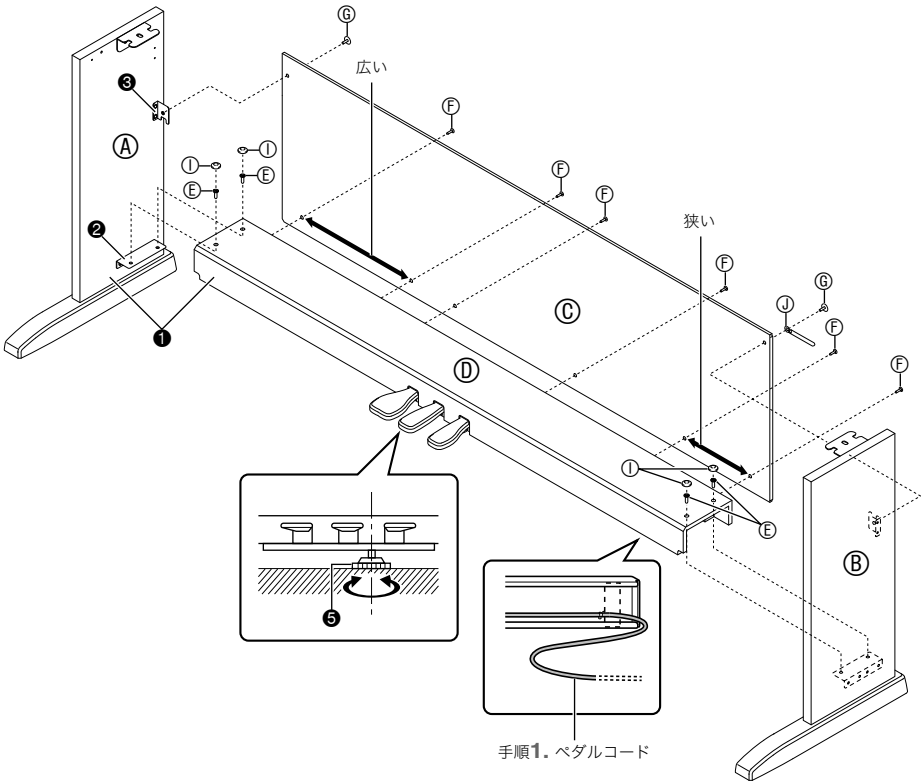
- 組み立てが終わるまで、本体の鍵盤カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などはさむことがあり、危険です。
- 付属部品以外のネジを使用しないでください。スタンドや楽器本体が破損する恐れがあります。
- ネジ類はビニール袋にまとめて、緩衝材内にあります。詳しくは、本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。
- ネジの紛失・破損時は、「修理に関するお問合せ先」に問い合わせてください。



	部品	数量
E		4
F		6
G		2
H		2
I		4
J		1

注意

- 組み立てでは、必ず2人以上で平らな場所で行ってください。
- 組み立ての際は、手などをささないようにご注意ください。
- 脚ゴムが床に直接触れないように、フェルトなどの布を敷いてください。脚ゴムが直接フローリングなどの床材に触れると、床材によっては床の変色や傷付き等の原因となることがあります。
- ピアノ本体を床に置くときは、本体底面が床に直接触れないように、柔らかいもの (毛布、座布団など) の上に置いてください。

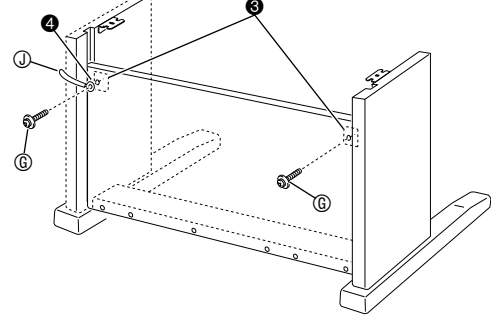


手順1. ペダルコード

1. 横木⑩を側板④、⑤に取り付けます。取り付けには、ネジ⑥を4本使用します。

- ①の部分を取り付けるときは、横木⑩の溝へ側板に取り付けた金具②をはめ込みます。奥までしっかりはめ込まれていないと、金具②とネジ⑥が正しくかみあわず、ネジ山がつぶれることがあります。
- 取り付けたネジ4箇所にはネジキャップ①を装着します。
- 横木⑩の中から、ペダルコードを引き出します。

- ③の部分を取り付けるときは、ネジ⑥をクリップ⑦の穴に通してください。



2. 背板⑨の左右上端を、側板④、⑤の金具③に取り付けます。取り付けには、ネジ⑥を2本使用します。

重要！

- 背板⑨は取り付ける向きが決まっているので、以下の通り、方向に注意してください。
 - 背板⑨を取り付けるときは、背板の下部にあるネジ穴の間隔が広い方を側板④側、狭いほうを側板⑤側にしてください。

3. 背板⑨の下半分をネジ⑦を6本使って取り付けます。

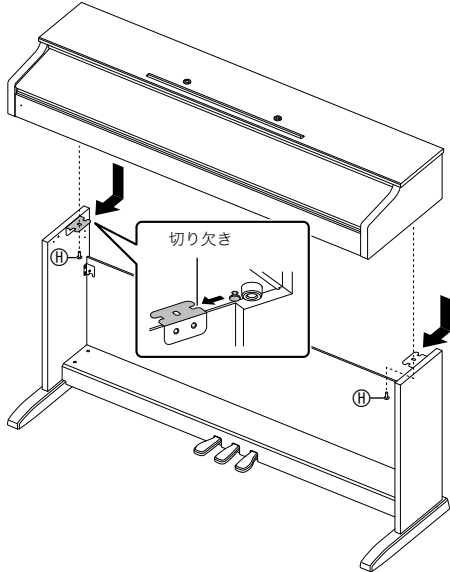
4. 高さ調節ネジ⑧で、ペダルを踏み込んだ時にスタンドの横木⑩が沈まないように、ネジ⑧の高さを調節してください。

重要！

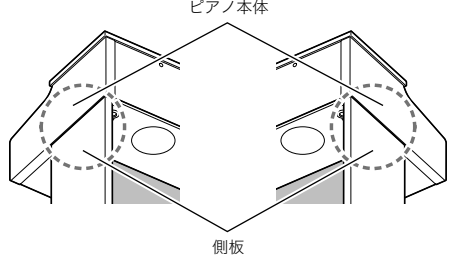
- 高さ調節ネジ⑧を調節せずにペダル操作を行うと、横木⑩がこわれることがあります。高さ調節ネジ⑧は必ず調節してください。

5. ピアノ本体をスタンドに載せます。

- このとき、ピアノ本体底面のネジが、スタンドの金具の切り欠きにはまり込むように、なるべくピアノ本体をスタンドの後側から沿うようにします。



- ピアノ本体をスタンドに載せたとき、側板との段差が左右で均等になるように位置を調整してください。



6. ネジ⑩を2本使って、ピアノ本体をスタンドにしっかりと固定します。

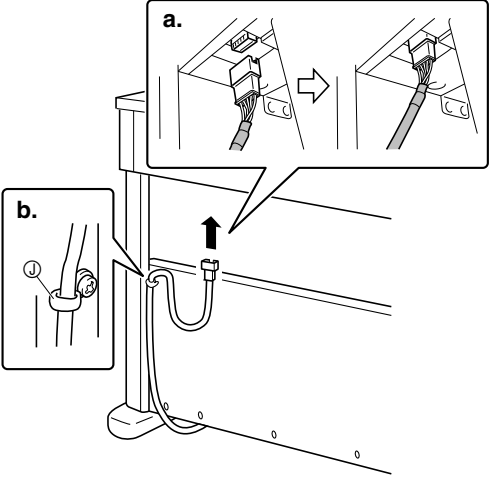
重要！

- ピアノ本体落下の危険を避けるため、必ずネジで固定してください。

コード類を接続する

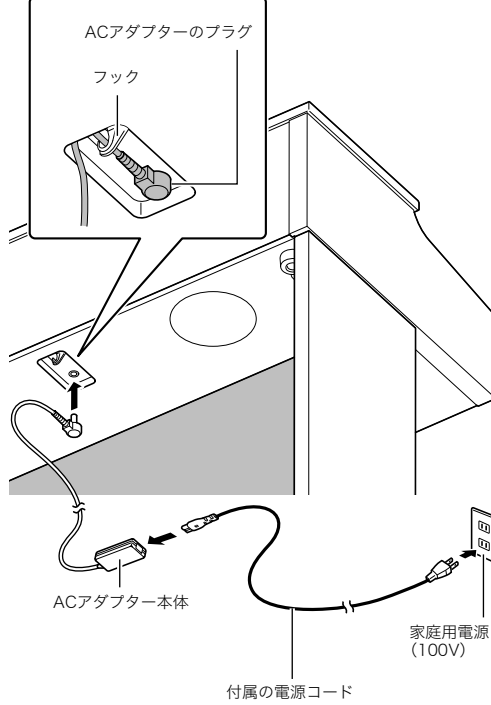
1. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクターに差し込みます。

- a. 根元までしっかりと差し込んでください。
- b. ペダルコードを側板⑧に、クリップ④で固定します。



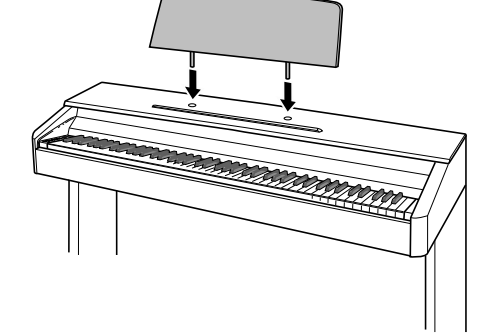
2. 本機の電源端子 (DC12V) に付属のACアダプターのプラグを挿し、ACアダプター本体と付属の電源コードを接続して、ご家庭の100V電源と接続します。

- ACアダプターのコードは、電源端子の横にあるフックにひっかけて固定してください。



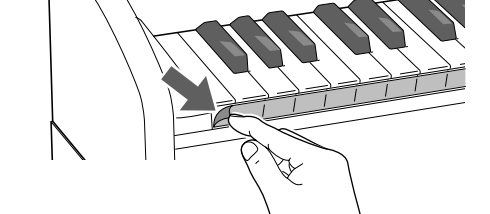
譜面立てを立てる

1. 本体の上面にある2つの穴に、譜面立ての脚を差し込みます。

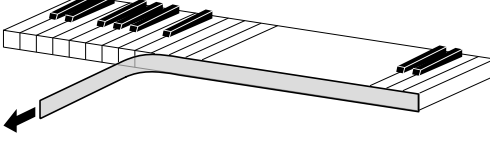


鍵盤に付いている保護テープをはがす

運搬の際に鍵盤を保護するため、鍵盤の手前部分に保護テープが付いています。本機をご使用になるときは、保護テープをはがしてください。



- 図のように、保護テープを手前にゆっくりはがしてください。



- 保護テープをはがしたあと、鍵盤が浮いてしまった場合は鍵盤を上から軽く押し込みます。

